

平成28年度アマノリ養殖概況

牧野賢治

育苗は10月下旬から始まった。水温は水産研究課鳴門庁舎の汲みあげ海水で平年より1℃高めであった。12月上旬に本養殖が開始されたが、例年に比べて本養殖時期が遅れたこと、原因不明のノリの生育不良により第1回目の共販が中止になった。その後ノリは生育したが、1月中旬にキートセロスが急増した。その影響で、DIN濃度が県北部漁場は、1 μg-at/L、県南部漁場は2 μg-at/L以下になった。1月下旬には、ユーカンピアが増加し、県北、南部漁場ともにDIN濃度が1 μg-at/L以下であった。2月20日の共販ではノリの色落ちが見られた。3月上旬には、ユーカンピアは、減少したが、栄養塩の回復がなく、ノリが生育不良となり生産枚数も伸びなかった。

平成27、28年度の徳島県漁連共販数量の経月変化を図1に、年度別に共販数量と平均単価の推移を図2に示した。養殖開始時期の原因不明のノリの生育不良の影響により12月の共販枚数は、昨年と同じ0枚であった。前年比については、1月が406%、2月が164%、3月が78%、4月は93%であり、3、4月が前年よりも少なかったのは、色落ちの影響と考えられる(図1)。

平成28年度漁期の共販枚数は45,366千枚で、前年比125%であり、平成27年度が凶作であったため、共販枚数が前年に比べて増加した結果となった。平均単価は、例年に比べて他産地の色落ちの影響から10.82円(前年比107.6%)であった(図2)。

水産研究課は、徳島県ノリ研究会に協力し、11月11日に阿南中央漁協で健苗度調査を実施した。

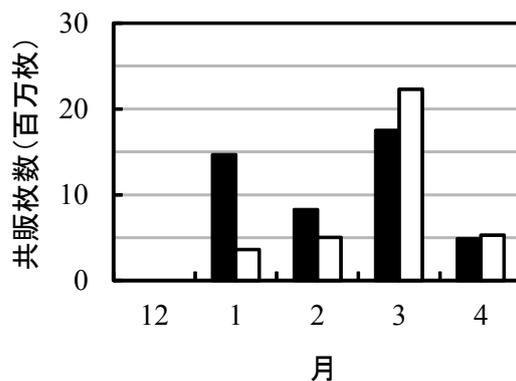


図1. 共販枚数の経月変化。

□:平成27年度；■:平成28年度

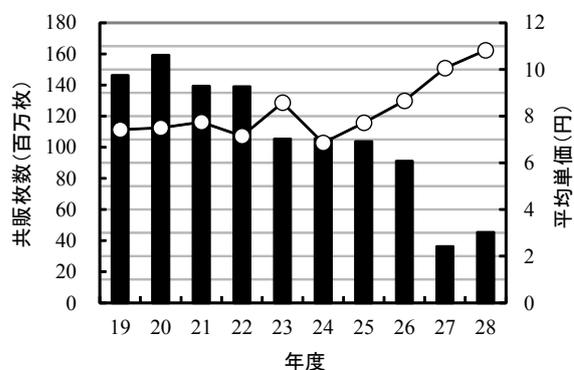


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。

■:共販枚数, ○:平均単価